



うま・十二支のほん



書名	著者名	出版社	請求記号
『ウマと話すための7つのひみつ』	河田 桟 // 文と絵	偕成社	E /ウ
<p>動物と話してみたい、と思ったことはありませんか？馬と暮らす著者が、一緒に過ごす長い時間で見つけた、馬同士のコミュニケーション「馬語」のひみつを教えてくれます。</p>			
『うまはかける』	内田 麟太郎 // 文 山村 浩二 // 絵	文溪堂	E /ウ
<p>おおかみに追いかけられたうまが「かける」、その後もいろいろなものを「かけて、どんどん大きなお話になっていって……。繰り返す「かける」のことば遊びが楽しい絵本です。</p>			
『こうまのマハバット』	市川 里美 // 作	BL出版	E /コ
<p>キルギスの村に住むジャミーラは、ひと夏の間、山で馬を放牧する祖父母の家で過ごすことになりました。足を怪我した黒い子馬に、キルギス語で愛という意味の「マハバット」と名付け、世話をし、交流を深めていきます。</p>			
『エカシの森と子馬のポンコ』	加藤 多一 // 作 大野 八生 // 絵	ポプラ社	F /カ
<p>北海道で牧場から逃げ出し、ひとり自由に生きている子馬のポンコ。森の中で長老の木・エカシやカメムシたちと出会い、自分の変化と向き合いながら、おとなへと成長していきます。</p>			
『北の馬と南の馬』	前川 貴行 // 写真・文	あかね書房	489.8 /マ
<p>日本の北側・青森県で生きる寒立馬(かんだちめ)と、南側・宮崎県で生きる御崎馬(みさきうま)。全く違う環境で生きるそれぞれの馬たちと、その生活をおった写真絵本です。</p>			
『ハヤト、ずっといっしょだよ』	井上 こみち // 文 平澤 朋子 // 絵	アリス館	789 /イ
<p>乗馬クラブでハヤトと名付けられた馬に出会ったマキは、ハヤトと一緒に生きていくことを決めます。人と動物が互いに助け合い、思い合う関係を描いたノンフィクションのおはなし。</p>			
『十二支のはじまり』	谷 真介 // 文 赤坂 三好 // 絵	佼成出版社	MU E /ジ
『十二支えほん』	谷山 彩子 // 作	あすなろ書房	382 /タ
『甲骨もじであそぶ ちゅうごくの十二支のものがたり』	おうよう かりょう // 甲骨もじ せき とみこ // お話 みかみまさこ // 構成	JULA出版局	821 /チ
<p>漢字のもとになっている、昔の中国で使われた絵文字「甲骨文字」。物語に登場する動物がすべて甲骨文字で描かれた、十二支のはじまりのおはなし。</p>			

